

広島大学学術情報リポジトリ
Hiroshima University Institutional Repository

Title	イタリア通信(イタリア留学中の古浦敏生氏より研究室宛てのもの)〈紀行〉
Author(s)	古浦, 敏生
Citation	広大言語 , 11 : 25 - 26
Issue Date	1971-12-06
DOI	
Self DOI	
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00046371
Right	
Relation	



ドブプロニクでの私どもの宿は、イクセルシオールというのでした。海辺景勝の地にあり、ホテルのへやからは、まむこうに、美しい古城の町が見えました。また、アドリヤ海の島々が見えました。〈学会の最終日には、一つの島への遠足会がありました。残念なことに、私どもは、その前の日の午後の発表の疲れで、朝7時30分発の遠足には、参加することができませんでした。〉

宿である晩のこと、ロビーにおいて、コーヒーを注文しました。持ってきてくれたのを見ると、そのうつわが、日本風の、古風な感じのやきものです。カップは、ごく小さいものでした。それに、少量のコーヒーがはいっています。これを見て、私どもは、日本の玉露をすすめられたような気になりました。外国にきて、こんなおもむきのコーヒーに接しようとはつゆ思いませんでした。ものめずらしく感じました。おいしく、そのコーヒーを飲んだのでした。

ベオグラードで泊った宿が、偶然のこと、また、イクセルシオールというのでした。もともと、こちらのイクセルは、私どもがさがした宿なので、気の張らないホテルでした。

その5階かしらのへやの2晩め、ねまきに着がえようとする、私のパジャマが、どこにも見あたりません。変だなあ、というわけです。さがしあぐねて、フロントに電話しました。まもなくメイドさんが来てくれて、さて私のパジャマをとり出したのは、どこからだったのでしょうか。じつに、私の寝台の、枕の下からでした。そうでしたかと、私どもは日本語でお礼を言います。彼女は、ことばすくなに、セルボ・クロアチヤ語で何かを言い、にっこりほほえんで出て行きました。

どこでもここでも、新しい経験をしたのが私どもの旅でした。学会は、私どもに、多くのよいものを与えてくれました、

(46.9.28.)

イ タ リ ア 通 信

(イタリア留学中の古浦敏生氏より研究室宛てのもの)

☆ (前略) 僕は22時間余りの飛行機旅でやや疲れましたが、それでも元気にローマ空港に着きました。伊外務省で留学生としての証明書を貰い、在伊大使館で外人登録をしまして、ローマでの仕事が済みました。本日は気も楽になりましたので、フォロ・ロマーノ、コロッセオ等を見物、その後バチカン市国に向いました。サンビエトロ寺院の中には、有名なミケランジェロのピエタがありました。聖母マリアのやさしい微笑が私をひきつけ、しばし立たずみました。たどたどしいとは云え、日本人がイタリア語で話しかけるわけですから、イタリア人の方も好意的でとても親切にしてくれます。ローマに来てみて、やはり伝統ある文化・歴史を持つ

た国の言語を専攻して良かったと痛感しました。—— 11月21日。

☆ (前略)さて、僕はフィレンツェに来て今日で12日目ですが、ようやく下宿も見つかり、やゝ落ちついたところですが。イタリアの本屋は、一般に、系統的な本の分類をしていませんので(日本人の僕には、雑然と並べてあるとしか思われませんが)、あらかじめ欲しい本のリストを作成しておかねば思うように購入できません。

イタリア語会話の方ですが、マアア通じているのでしょう。フィレンツェでは標準語に近い言葉が話されていますが、訛りもありまして、eg. [K]の音が[h]の音になるようです。coca colaもコココーラではなく、ホハコーラと発音します。

奨学金を貰うこと、食事の注文をすること、買物、何もかもが良い勉強です。「留学」、一見華やかに見える単語ですが、実際、外地で1人で生活するのは大変なことで、やはり、日本のあたたかい言語学研究室が一番です。(後略)—— 12月4日。

☆ (前略)僕の下宿は一般家庭でして、家庭同様(但し、食事は外食)の扱いを受けています。ここには、お婆さんとその兄の2人だけが住んでいます。2人とも足が弱く、買物の荷物持ちをしに店屋(イタリアの店の名前は変わって来て、2m(クリーニング屋)、48(小さなマーケット)、等)に行ったり、1人で行かされたりします。その代り、テレビも見せてくれますし、珍しい食物も食べさせてくれます。庶民は、どこで何を買いなのか?その時、どんな会話がかわされるのか?僕には大いに興味があります。(後略)—— 1月6日。

☆ (前略)今日は、フィレンツェ大学文学部の学生気質について記してみましよう。男性は、パンカラなフェミニストと云った感じで、髪をバサバサにし、ひげを伸ばし、きたならしい格好をしています。女性には弱いようです。女性は、黒か茶色のマントを地面に引きずるようにして歩き、チラリチラリとマントの切れ目からミニスカートのをぞかせています。風流ですね。彼女等はよくタバコを吸いますよ。図書館では、Rohlf'sの「伊語歴史文法」の伊訳しか読まないの、私は「独語の原典を読んだ方がいいよ」と云ってやりましたら、「独語は読めない」と云っていました。やはり、母国語の本しか読みたがらないようです。又、チューインガムを噛みながら(図書館で)本を読んでいます(一部の学生)。又、試験前にならないと図書館は満員御礼にならないようです。(後略)—— 2月6日。

☆ (前略)さて、先日は、「廣大言語」編集部より御便りと「廣大言語」10号を拝受。何回も読み返しています。異国で読む「廣大言語」の味は格別です。あたたかい家庭的なムードの中に、ピリッとした学問的なわさびのきいたものもあり、研究室の親睦をはかるこの種の雑誌としては最高ではないですか?(後略)—— 3月1日。

☆ (前略)こちらからの郵便小包の発送は実にめんどります。包装用紙は決められていますし、キャラメル型に包まねばダメです。又、ひもは途中で切らずに1つづきにし、最後の所を鉛でガジッと止めねばなりません。これをやってくれる店も決っています。さらに、セロテープで紙の切れ目を無くし、全体で10Kgを越えるとやり直しとなります。1つ発送するのに1日がかかります。全く困った国です。では又。お元気で、—— 4月11日。